**公的年金保険を題材としたモデル授業①指導案**

○授業の目標

・人生には様々なリスクが潜んでいること、社会保障がリスクに対して国民全体で支え合う制度であることを理解する。

・各自が必要と考える社会保障制度について考察し、自らの意見を、論拠をもって表現する。

【１時間目】

|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点  （社会保障教育の視点） |
| --- | --- | --- | --- |
| 【問い】持続可能な社会保障の在り方はどうあるべきか。 | | | |
| １　社会保障について考えてみよう | | | |
| 導入  15分 | (1)わたしたちの生活と社会保障制度  (2)社会保障を支える財政 | 発問これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるでしょうか？【ワーク１】  ○これからの長い人生のなかで直面するかもしれない困難な出来事についてワークシートに記入する。  ○副教材p.３「わたしたちの生活と社会保障制度」を見て、社会保障制度の全体像を確認するとともに、【ワーク１】で記入した様々な困難な出来事への対応方法として使えそうな制度についてワークシートにメモをする。  ○副教材p.４～５「社会保険とは？」「日本の社会保険制度」を参考に、社会保険の仕組みと意義を確認する。  発問社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるでしょうか？【ワーク２】  ○社会保険がなかったら自分たちの生活、人生がどのようになるのか考察し、グループで議論する。  ○副教材p.６～８「社会保障給付費の推移」「社会保障の給付と負担の現状」「ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ」を見て、気付いたことを発表する。 | ○卒業後の直近の人生だけではなく、高齢期も含めて考えられるよう、アドバイスする。  ※困難な出来事については、主なもの（病気・ケガ、長生きによる収入減少、（自分が）介護（を必要とする状態になること）、失業、貧困）をあらかじめ提示し、自分にとってより困ると思う順番を付けさせるなどといった方法により、望んでいなくても誰でもこのような出来事が起こりうることを確認させてもよい。このとき、「長生きによる収入減少」については、長生きすること自体は望ましいことであっても、長生きすることによって必要となる生活費等を事前に予測することができず、経済的に困る可能性があることを補足する。  ○人生の中で起こりうる困難な出来事とそれに対応する社会保障制度の全体像を説明する。  ・私たちの安定した生活に欠かせない社会保障制度。日々の「安心」の確保や生活の「安定」を図るための制度であり、一生を通じて私たちの生活を支える役割を担っている。  ・日本の社会保障制度には、社会保険（◇医療・年金・介護等）に加え、社会福祉（☆児童手当、障害福祉サービス等）、公的扶助（○生活保護等）、公衆衛生（□感染症対策・保健事業等）がある。  （○ワークシートに記入した困難な出来事とその対応方法として使えると考えられる制度について発表させる。）  ○社会保険がない場合とある場合を比較しつつ、社会保険の仕組みと意義を説明する。併せて、 日本の具体的な社会保険制度について説明する。  ・社会保険は、私たちの日常生活のリスクを分かち合うため、法律で対象者を定め加入を義務づけている。保険料の金額は原則、賃金などの負担能力に応じて決まる。（必要な保険料負担をしていないと必要な時にサービスを受けることができない。国民年金の保険料は所得にかかわらず定額。低所得者には保険料の軽減を実施。）  ○グループでの議論の結果をワークシートに記入させる。（いくつかのグループを指名して発表させる。）  ※具体的にイメージすることが難しい場合は、「年金保険がなかったら」などのように具体的な制度を１つ挙げて考えさせてもよい。  ○発表を整理して板書する。  ・国民１人当たりの社会保障制度利用にかかる費用（社会保障給付費）は年々増え続けている。  ・社会保障給付費の６割は保険料で賄われているが、税金も使われている。  ・一生の中で主に給付を受ける時期と、逆に主に負担する時期がある。  ※現在、給付は高齢期中心、負担は成人期中心というこれまでの社会保障の構造を見直し、切れ目なく全ての世代を対象とするとともに、全ての世代が能力に応じて負担し、公平に支え合う「全世代型社会保障」への改革が行われていることを補足してもよい。  ※参考資料「政策分野別社会支出の国際比較」を参考に、日本における高齢者に対する社会支出は、国際的に見ると、高齢化率の高さ（28.6％）の割にはそれほど多くないことを補足してもよい。  　・高齢者への支出の対GDP比は、スウェーデン（高齢化率20.0％）やドイツ（高齢化率21.8％）と同じくらいで、フランス（20.6％）より低い。  ※副教材p.８「ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ」の説明の参考などとして、p.９「社会保障制度を支える主な「職業」」を示し、保険料・税金を払う以外にも職業として社会保障制度を支えることもできること、社会保障制度には雇用を創出して経済を支える機能もあることを説明してもよい。このとき、身近な人が就いている職業や、将来やってみたい職業などに○をつけさせてもよい。 |
| ２　公的年金保険について考えてみよう | | | |
| 展開①  15分 | (1)公的年金保険の意義 | 発問【クイズ１】  ○読み上げられた選択肢の正しいと思うものに手を上げる。３問目について、なぜその答えが正しいと思うのか、発表する。  ○【ワーク３】の四角に当てはまる用語を埋めつつ、公的年金保険には３つの種類があることを理解・把握する。  ○副教材p.11～12「年金制度の設計の考え方」「公的年金保険とライフコース」を参考に、年金制度の全体像を理解・把握する。  発問自分は20歳になったらどの年金に入っていると思いますか？【ワーク４】  ○副教材p.12「公的年金保険とライフコース」を見ながら、自分の人生設計を踏まえると20歳になったらどの年金に加入していることになるのか考える。 | ※展開①の冒頭で、【ワーク９】の発問を投げかけ、その時点での個人の考え方を発表させたり、ワークシートにメモさせたりしてもよい。  ○１問ずつ、クラス全体に問いかけ、解説する。３問目については、そのように考えた理由を何人かに発表させてから解説する。  ○四角に当てはまる用語を板書し、それぞれの年金について解説する。  ・「年金」というと「老齢年金」がイメージされ、高齢者のものとイメージされがちだが、実際には全ての世代が遭遇する可能性のある収入減少のリスクにも対応しており、全世代の安心のための制度である。  ・公的年金保険は、予測できない将来のリスクに備えるもの。公的年金保険には、「老齢になった」「障害を負った」「家族が亡くなった」という予測できない３つの収入減少のリスクに対応するため、「老齢年金」「障害年金」「遺族年金」が用意されている。  ○選択する人生の在り方に応じて加入する年金が異なることを説明する。  ・日本の年金制度は３階構造であり、働き方・暮らし方によって加入する年金が異なる。  ・転職や退職等によって働き方・暮らし方が変わった場合には、加入する年金が変わることがある。  ・高齢期には、国民年金のみに加入していた場合には基礎年金のみ、厚生年金に加入していた時期がある場合には基礎年金に加えて厚生年金を受け取ることになる。  ・（卒後就職予定の生徒向け）20歳以前から会社員や公務員として就職している場合には、就職時から厚生年金に加入することになる。  ・（卒後進学予定の生徒向け）申請することで20歳以上で学生でいる期間中の国民年金保険料が猶予される学生納付特例制度がある。申請せずに国民年金保険料を支払わないと、20歳以上で障害を負った場合に障害基礎年金を受け取ることができない等の不利益がある。なお、10年以内に猶予した分の国民年金保険料を支払わないと、将来の基礎年金額が少なくなる。  　※コラム「公的年金保険に加入するには」、「年金保険料の支払い方」及び「学生納付特例制度」も参考に、制度の詳細について説明してもよい。  ○生徒各自の考えをワークシートに記入させる。  ※記入した回答や、その後の自分の人生設計（大学等卒業後の進路等）を踏まえて、高齢期に受けとる年金が基礎年金だけなのか、厚生年金も受けとることができるのか等について併せて考えさせてもよい。 |
| 展開②  15分 | (2)公的年金保険の仕組みと必要性 | 発問【クイズ２】  ○読み上げられた選択肢の正しいと思うものに手を上げる。  ○副教材p.13「公的年金保険は、「仕送り」を社会化したもの」を参考に、日本の公的年金保険の仕組みについて理解・把握する。  ○【ワーク５】の四角に当てはまる用語を埋めつつ、２つの財政方式の違いを確認したうえで、日本の公的年金保険の財政方式を理解・把握する。 | ○１問ずつ、クラス全体に問いかけ、解説する。  ○日本の公的年金保険が仕送りを社会化したものであることを説明する。  ・公的年金保険は20歳以上60歳未満の国民が支払った保険料などを原資として、高齢者をはじめとしたリスクに直面した方への給付に充てられている。  ○四角に当てはまる用語を板書し、２つの財政方式の違いと日本の公的年金保険が選択している財政方式を説明する。  ・物価変動のリスクや長生きに伴うリスクに対応するため、公的年金保険は積立方式ではなく賦課方式が適当。  ・賦課方式を採用することで、個人の貯蓄では対応することが困難な物価変動のリスクにも対応。  ・ただし、年金給付の財源が現役世代（概ね20歳以上60歳未満）からの保険料が主なものとなる賦課方式については、このまま少子高齢化が進むことで、年金の給付に必要な額を現役世代からの保険料収入だけでは賄えなくなる可能性がある。そこで、現在の日本の公的年金保険では、一定の「年金積立金」を保有し、それを活用することで少子高齢化の影響を軽減するという、賦課方式のデメリットを積立方式で補う方式を採用している。 |
| まとめ  5分 | 本時のまとめ | ○ワークシートに本時で学んだことを記入する。 | ○社会保障制度の全体像と年金制度を知っておくことの意義を強調する。  ・人生には様々な「リスク」が伴うが、年金をはじめとした社会保障は社会全体の支え合い（共助）の制度である。  ・今後それぞれの道に応じて公的年金保険に加入し、保険料を納める立場になっていくため、その制度の仕組みや意義について多面的・多角的に理解することが必要。 |

【その他活用可能な教材等】

（導入）

・外部講師の活用

←年の近い卒業生（出産、子育て、医療、介護で社会保障制度を利用した体験を聞く。）、老齢年金受給世代等（年金についてどう考えるか聞く。）、各国の大使館（各国の社会保障制度について聞く。）へのインタビューを行う。年金制度について日本年金機構によるセミナー等を聞く。

※外部講師の活用の際はオンライン会議を積極的に活用。

・映画の視聴

←｢家族を想うとき｣等社会保障全般を題材に扱った映画を視聴し、社会保障が自分たちの生活に果たしている役割について議論する。

（展開②）

・副教材「私と年金」エッセイ　　P.099～

←エッセイを読んで、年金が果たしている役割について議論する。

　※日本年金機構ウェブサイト　「わたしと年金」エッセイ

<https://www.nenkin.go.jp/info/torikumi/nenkin-essay/20221130.html>



（参考資料）政策分野別社会支出の国際比較　　P.102

　※高齢支出には、老齢年金保険及び介護サービス（日本では介護保険）の給付費が含まれるが、医療保険の給付費は保健支出に含まれていることに注意が必要。

【コラム】　　P.103

〇公的年金保険に加入するには

〇年金保険料の支払い方

〇学生納付特例制度

【その他参考となる資料】　　P.106

○厚生労働省ウェブページ　「年金広報」

○厚生労働省ウェブページ　「わたしとみんなの年金ポータル」

【２時間目】

|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点  （社会保障教育の視点） |
| --- | --- | --- | --- |
| 導入  10分 | (3)少子高齢社会における公的年金保険 | ○副教材p.15の「人口ピラミッドの推移」を見て、気付いたことを発言する。  発問少子高齢社会が公的年金保険に与える影響にはどのようなものが考えられますか？【ワーク６】  ○少子高齢化が進むと、公的年金保険にどのような影響があるのか、グループで議論する。  ○副教材p.16「現在の公的年金保険について」を参考に、少子高齢社会に公的年金保険はどのように対応しているか確認する。 | ○発言を整理して板書する。  ・年少人口が減って高齢人口が増えている。  ・１番人数が多い年齢がどんどん高くなっている。  ○グループでの議論の結果をワークシートに記入させ、いくつかのグループを指名して発表させる。  ・保険料を支払う現役世代の人口（生産年齢人口）が減少する一方で、高齢者が増加し、年金受給者が増えることを把握し、持続可能な公的年金保険を実現するために、国民全体の問題として考える必要がある。  ○マクロ経済スライドによる調整の仕組みを説明する。  ・少子高齢化に対応するため、年金財政は、保険料負担の上限を固定した上で、積立金の運用収入や取り崩しを行い、マクロ経済スライドによる年金額の給付水準の調整により、持続可能な仕組みとなっている。 |
| 展開①  15分 | (4)人生100年時代のリスク  ①高齢期の生活にどう備えるか | 発問人生100年時代といわれるなかで、誰もが長生きする可能性があります。高齢期はどのように暮らしたいですか？【ワーク７】  ○副教材ｐ.17「平均寿命の推移と将来推計」、ｐ.18「統計で見た平均的なライフサイクル」も参考に、何歳までどのように働きたいか、仕事以外の生活はどうしたいか、仕事を辞めた後はどうしたいか等について考え、ワークシートに記入する。 | ○生徒各自の考えをワークシートに記入させる。  ※議論の参考として、定年制等に関する高齢者の就業機会の確保のための最近の動きを説明してもよい。（コラム「高齢者の就業機会の確保」参照。） |
| 展開②  20分 | (4)人生100年時代のリスク  ②老齢年金の役割 | 発問あなたがイメージした高齢期の生活費はどのように賄っていけばよいでしょうか？【ワーク８】  ○【ワーク７】で考えたことについてグループで共有した上で、老後の生活費の賄い方にどのような方法があるかグループで議論する。  ○年金制度には、人生設計に応じた様々な活用方法があることを確認する。  発問少子高齢化が進むなかで、みんなが長生きに伴うリスクに備えるためにはどうすればよいでしょうか？みんなで税金や社会保険料を支払うことで主に政府が対応するべきでしょうか（Ａ）、それとも税金や社会保険料を支払うのではなく、家族の間で助け合ったり個人で努力したりするなど、主に家族や個人が対応するべきでしょうか（Ｂ）。【ワーク９】  ○少子高齢化が進んでいることを踏まえ、今後もみんなが長生きに伴うリスクに備える方法について、そのように考える理由も含めて議論する。 | ○グループでの議論の結果をワークシートに記入させる。（【ワーク９】とまとめて議論させてもよい。）  ○議論の参考として、繰り下げ受給や私的年金（企業年金、iDeCo等）などの活用について説明する。(コラム「年金の繰り下げ受給」及び「私的年金（企業年金・個人年金）」参照。)  ○グループでの議論の結果をワークシートに記入させ、ワーク８の議論の結果と併せて発表させる。  ※「長生きに伴うリスク」については、長生きすること自体は望ましいことであっても、長生きすることによって必要となる生活費等を事前に予測することができず、経済的に困る可能性があることを補足する。  ※Ａ、Ｂ以外の第三の考え方について議論してもよい旨を補足してもよい。  ※政府が中心に対応する場合はその対応に必要な税金や社会保険料をみんなで確実に支払う必要があること、家族や個人が中心に対応する場合は想定外に長生きしてしまうと家族や個人では対応しきれない場合もありうることについて補足してもよい。 |
| まとめ  5分 | ２時間の授業のまとめ | ○ワークシートにこの２時間の授業で学んだことを記入する。 | ○この２時間の授業で学んだことを確認させ、この２時間の授業の内容を多面的・多角的に学ぶ意義を強調する。  ・自身のライフプランの設計において、老齢年金が活用可能であること。  ・公的年金保険を維持するためには、公的年金保険の意義や仕組みを理解し、少子高齢社会における公的年金保険の課題について考える必要があること。  ※１時間目の展開①で【ワーク９】の発問を投げかけた場合は、この２時間の授業によって考え方が変わったかどうか、考えが深まったかどうかという点について記入させてもよい。 |

【その他活用可能な教材】

（展開①）

内閣府「令和５（2023）年版高齢社会白書」

<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>



令和４年度　高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況

第２節　高齢期の暮らしの動向

１　就業・所得

２　健康・福祉

<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/05pdf_index.html>



←「高齢期」の生活といっても、何歳までどのように生きたいか（will）、どのように生きられるか（can）ということが異なることに気付く。

（展開②）

・副教材「年金制度の仕組み」　　P.101

【コラム】　 　P.103～

〇高齢者の就業機会の確保

〇年金の繰下げ受給

〇私的年金（企業年金・個人年金）